

負債構成、ロールオーバー・リスクが株主還元策に及ぼす影響

日本学術振興会 岩木宏道

一橋大学 斎藤巡友

本稿では、ロールオーバー・リスクが企業の財務的意思決定のなかでも株主還元策に及ぼす影響について負債構成の相違を考慮に入れながら実証分析を行った。その結果、企業がロールオーバー・リスクに直面すると配当を減額し、自社株買いも含めた総利益還元額も減らす傾向にある。さらに、財務柔軟性確保のため、同じ株主還元であっても自社株買いを選好するようになることがわかった。しかし、このような傾向については公募負債市場へのアクセスを有する企業においては確認できず、資金調達制約に直面していない企業においてはロールオーバー・リスクと株主還元策との結びつきは弱まることがわかった。これらの検証結果は、資金調達制約に直面する場合において、財務柔軟性の確保の必要性が高まる結果として株主還元策にも影響する経路の存在を示唆している。